愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢五厘一ヶ月分七錢　三ヶ月貳拾壹錢半年分四拾貳錢　壹ヶ年分八拾四錢金國無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割増
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麹町區下二番町三十七番地　大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

日本人の大缺點

日本は特殊な國體である爲に、忠君の精神は古來大に養成されて居るけれども、其他の德義は甚だ幼稚である。其中で僅に家族間の德義は稍行はれて居れども、公共の德義に至ッては殆んど皆無と云ッても宜しい程である。自分の都合さへ好ければ、他人の迷惑・難義は少しも頓着しないと云ふのが世間普通の風である。賄賂を貪る議員あり。投票を賣る選擧人あり。袖の下を受くる官吏あり。町村の財産をごまかす公吏あり。書肆の請託を受けて教科書を採用する教育者あり。博愛慈善を名として自己の名利の爲にする僞君子あり。其他商人に至ッては、從前より町人風勢と一口に輕蔑されて居ッた習慣でもッて、自ら卑屈に甘んじ、如何に鄙劣な所行を働いても、金さへ儲かれば可と心得居る者が多い。世間滔々斯様な有様であッては、憲法政治の美果は得られない、國の富實は望まれない。洵に浩歎の至りである。

之を矯め直さうとしても、今日世に立ッて事を執ッて居る者は、所謂其病が膏肓にいッて居るから、殆んど療治の仕やうがない。唯望む所は第二の國民、即ち婦人方が今日家庭に於て訓育して居らるゝ子女たちをして、斯様な病に感染せしめない様に用心するとが肝要である。

西洋の文明國では、此公共の德義と云ふ事が大層進歩して居ッて、子供の時から能く訓育が屆いて居る。一例を擧れば、或時十歳ばかりの男兒と七歳ばかりの女兒とが、公園の鐵柵の外に立ッて困ッたと云ふ顔付をして柵の內を見て居つた、其處へ巡査が來て何したのかと問ひましたら、ゴム球が柵の中へ轉り込んで困ッて居ると答へました。それで巡査は早速取ッて來てくれたさうである。

然るに其鐵柵は子供の身躰は自由に這入られる程間が透いて居るのであるが、それにも拘らず、鐵柵の內は這入るべからざる所としてあるのだから、遠慮せねばならぬと云ふとを、子供でも能く心得て居るのである。其位心がけがよいのであるから、西洋では公園に『樹木折るべからず』と云ふ制札がいらないのも其筈である。又一人の女兒が何か拾ッたのを巡査がちらと見て、指輪か時計でも拾ッたのであらうかと思ッて、女兒の跡を尾けて行きまして、お前は今何を拾ッたか、出して見ろと云ひますと、女兒は硝子の屑片を出しました。巡査は不思議さうに、それを拾ッて何にするのかと尋ねましたらば、女兒は人が踏むと危いから拾ッたのですと答へましたさうです。子供の時から斯様な心がけであれば、成人して賄賂を取る様な鄙劣な所行を働かないで高尚な人物となれるのである。

日本は何もかも未だ幼稚であるが、就中公共の德義のないのが最も大なる缺點である。而して此缺點は婦人方の力を借りて、兒童の時より之を養成しなければ、其他には十分に効力ある方法がないのである。

演說

英國の家庭教育（其三）

評議員　下田歌子女史演說

其家庭教育の有様は、無論女の方には他國の皇后におなりなさるのがありますから、君としての御教育、即ち種々精神上の修養は最も力を盡され、又學問技術としては、第一に語學て、第二に力をお盡しになつたのは妙です、實業教育です。是は指物師・時計屋・飾屋・裁縫師と云ふ様な、本當に職人的のとを一通り御教育になつた。さうして普通の職工に拂ふ所の賃錢を、女皇が皇子皇女に御拂ひになり、其賃錢を職工として御受けになる所の皇子女に向つて、女皇が諭されますには、御前等は臣民の困苦は如何であるかを考へねばならぬ、是程些少な賃銀では「パン」と「バタ」を喫べるだけさへなか〳〵容易てない。之を以て臣民は妻子を養ひ租税を拂ッて居るので、其苦しい想をして出す租税が皇室費となる。さうして我等は立派な宮殿に住み、立派な馬車に乘り、立派な着物を被、美味い物を喫べる。であるから國君は如何にも負擔が重いものだと云ふとを考へねばならぬ。かう云ふとを始終言ッて御聞かせになりました。そしてその賃銀は皆慈善の爲に使ふとをお敎へになりました、誠に結構ですね。此風はやはり臣下に及ぼして居りまして、總て英國の貴族の御婦人方は何か一つ嗜みがあります。勿論普通學を修めて、それから上流の處に至ると、

評議員　下田歌子筆

先づ語學を研究するといふやうに、何か自分の好む所のもの、畫が好きなら畫とか、それからモウ一つ進んで文學に長じて居る人は文章を作る、其文章を作ッても、日本のやうな花鳥風月、墨田川に行ッて花が好いなどといふのでは無い、それはモウどう云ふことでも、チャント理窟的に出來て、筆一本を以て喫べるといふやうな學問の仕方は隨分やります。夫等はモウ大層高尚なので、あとは造花・編物・帽子を造ることなど種々なことを致します。元來女子が一つの職業を嗜みに習ひまして、さうして其出來上ッたものは、是が慈善館に賣れるので、之を常に開いて居るバザーもあります。併し大抵は年に何回と言つて、さう云ふ貴婦人の造られた物を賣るところの慈善會があつて、此慈善會で得る所の金は、先づ大抵慈善事業に使ふ様になつて居ります。

次には家庭で一番嚴しく矯める所のものは、噓を吐くといふことです。此噓を吐く、信實で無いといふことを矯めるのは非常なものです。隨分暴ばれて着物を引裂いたとか、物を投げ出したとか、さう云ふことに付ては隨分叱る母親もありますけれども、それは餘り酷く無くても、此噓を吐くといふことに付ては、モウ上下通じて大變嚴しい。夫から中等以下の家庭になりまして、勿論私の泊つてしらべたのは中等までゞ、どうも下等の所まで行つて寢泊りしませぬから能く分りませぬが、中等以下の家庭では、小供の時から非常に仕込むことは理財の觀念です。實利的、即ち一文一厘の金でも無駄に使はないといふことに付ての敎育は又酷いものです。勿論此金錢の勘定に付ては、上流社會も日本のやうでなく、モウ幼い中からよく知つて居ります。それはどうしてさうであるかといふと、チャント小供にもお金があてがッてあつて、勸工場のやうな所に行つて玩具を選ばせます。まづ好みといふものも無論選ばせますけれ共、其品物の利害如何といふことに付て、買物をさせる上から小供の頭に浸み込ませます。夫れであるから、是は大きいが廉い、どう云ふ譯だ、是は小さいが高い、どう云ふ譯だらうといふことを能く知る、即ち物の價値を能く知るのである。

奥村五百子刀自の誠心を　東京　會員　松下高子

老の坂のぼりながらも國のため
盡す心のいさましき哉

奥村女史の演說を聞きて　愛知　會員　石川類子

あな嬉しすめら御國を思ふどち
つどひて刀自のみさとしを聞く

聞わけのかた田舎なるしつのめも
君がさとしに袖ぬらしけり

電話番町壹千三百三十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

皇后陛下の御仁德に付て

男爵　石黒忠悳

五月廿七日東京慈惠醫院へ、皇后陛下行啓の節、拜謁被仰付たる時に、皇后大夫香川子爵が御側に立て、石黒は近來久しく拜謁致しませんてと申上られ、爲めに皇后陛下より、御詞をも賜りたから、右の御禮を申上られたしとて、頃日子爵方へ參りたら、子爵が申さるゝには、イヤ貴君に御聞せ申たら實に悦ばるべき御事がある、先頃、陛下は特に仰らるゝやう、人は年齡によりて身體肥瘠の程も變り、又屈曲の度も更るものなるが、義足に二十七八年役に於て負傷し手や足を亡ふて、義手足を與へたる輩も、もはや六七ヶ年の星霜を經たれば肥瘠屈曲の變更によりて、義手足の既に不適となりし輩もあるべく、又日々用ひて既に破損したる輩もあるべし、よく取調べて其不適となりしものをば新にし、破損せしものをば修補して取らすべしとの、仰ありき、依て官僚を巡回せしめ、其取調の事并に、修補せしむる事を、陸軍大臣に御達に成たり、而して諸費額は、特に御手元より下し賜るなり、元々此義手義足をば、内外戰士の負傷したる者に賜りし最初には、貴君は時の野戰衛生長官として、此事に付ては親しく御前にて申上られしこともありし事なれば、今日此修補の此事を拜承されたら、さぞ悦ばるべしと特に御話申すと申されし。余此事を拜承して唯々涙にくるゝ斗りにて、暫時の間は何と答も出ざりし、抑戰地に於て手足を失ふたる者に、皇后陛下より義手足を賜りたるといふは我朝は固より、外國にても其例を聞ず況や、敵軍の傷者又捕虜の傷者にも之を賜りたるをや、況や去るものは日に疎して、近く親しき續き合のものにても、別れて二年となり三年と隔つれば、漸く遠々しくなりて、遂には思出さぬまでに忘るゝが常なるに、兩陛下とも、特に陸海軍には、大御心を注かせられ玉ふ厚きことは、常に承り奉るといへ、五七年前、義手義足を賜りたるものゝ、其身の上を思ひ遣らし玉ふとは、其經過を案し思召し玉ふとは、其他が各郷里に、いかに暮し居るかを、九重の内に案し思し玉ふとは、母の子に於けるよりも尚深き思召と謂ひ奉るべく、又義手義足の事たる、昔通の人は、田舍など巡り、嘗て義手足を賜りたる者に逢ふて、たま〳〵其義手足を着けざるを見たり、又取て之を床の間などに置くを見て、一概に其實用に適せぬなど、早合點して話す者さへあるに、九重の内に在します御身にて在りながら、義手足は、年齡によりて、身に肥瘠の變りあると共に變ること、器械の精巧は、年一年と開け進むにより、四年五年前の製品は、今日に比して精ならざること、又常に用ふれば、數年ならずして、破損するゆへに、修理を要する事までも、思召付かせられ玉ふ、御聰明には、實に恐れ仰き奉るの外なく、我々軍人の一人として、又此義手足恩賜の事に關しては、最初より思召を受けたる忠惠として、感涙に咽ぶ斗りなり、不日陸軍省より、軍醫官に職工を隨へ、各地を巡りて調査あるべきも、呉々も大御心の難有きに感じ、默するに忍びず、謹みて此に其概畧を語りぬ、

海軍茶話（三）

海軍大尉　長尾耕作

○休め煙草許す　とは、艦内又は兵營内で、兵員の事業中に休憩を命じ、煙草を喫ふ事を許す時の號令の辭であるが、軍艦では艦長室の外では、一切喫煙を禁じてあつて、定時定所の外は喫煙を許さない。士官室といへ、來賓ある時の外、猥りに副長の許可を受けずしては、煙草を吹かせる事は出來ない。其處て此號令があると、後甲板には士官用の煙草盆と折椅子が置かれ、前部では准士官下士並に卒の煙草盆が並べられる、其煙草盆には火繩を一本づゝ備へてあつて、其火繩で煙草に火を移すのである、煙草盆は下士卒のは四角な淺き箱て、准士官以上のは圓錐形の頭を切り取つた形をしてをる、近頃は捲煙草が盛に用ひられる故一度火繩で火を取れば、其吹殻は煙草盆に投げ入れる迄てあるが、日本固有の煙管と刻煙草ては、一服々々此煙草盆に吸殻を叩き込むは、多數の兵卒に對する少數の煙草盆ては、迚も行はれないので、或は甲板上の金物は、時に煙草盆の代理を勉めてをる事もあり、甚しきは甲板上に遠慮なく吹殻を叩いてをる者もあるが、是等は譴責されるは勿論である。五分か十分の後には「煙草止め」の號令が下つて、無數の灰殼を載せたる煙草盆は受持の兵卒の爲に持ち去られ、士官用でも何でも用捨なく持ち運ぶ、爲に後れ馳せに來た士官が今火を附けた計りの上等「シガレット」を、火を消す不體裁の行爲も出來ず、可惜灰殼中に投入する事もある、此五分か十分の休憩時間は軍艦生活を常とする者には、無上の樂しき時間である、勿論食事後とか、事業後とかには喫煙を許してはあるが、一日の中午前午後事業中の中程にある五分十分は、喫煙者には待ち焦れられるのである。

○衛生酒　雨天に雨に濡れて勞働したり、寒い日に非常の勞働をしたり、其他荒天の際兵員か疲勞を來す事業を行つたとき、興奮の爲總ての人に號令を下して酒を飲ます事がある、葡萄酒や「シャンペン」なれば、幾百人の兵士に飲ますには莫大な費であるから、正宗位を飲ますのであらうとは、一寸誰でも想像するに違ひない、が、其想像は大違ひて、「ラム」に水を增したのを「總員衛生酒飲み方」と云ふ號令を下し、下士官から順に一等卒二等卒と後甲板に呼び集め「タンブラア」に一杯づゝ飲ますのである、十年も十二三年も海上に慣れた下士官などは、舌打ち鳴らして飲むのがあるが、新參の四等水兵などは、一口飲みかけて、存外の味に呆然として飲み得ないのが多い、全體に其名ては甘さうな衛生酒は、余り歡迎されない。

○被服繕ひ　軍艦て木曜日の午後は、先づ休日同樣て例日の事業時間は「總員被服繕ひ」といふ日課てある、兵員は銘々各自の被服を修繕し、又は衣嚢と稱する衣服を入れる嚢の中を整備するので夏冬の入れ替へ、「マーク」の附け替へなどは、此日に行ふのが適當てある、尤も修繕の必要も無きものは、書物の自修や、手紙を草するなど、自分の用を辨してをる。婦人方此日軍艦を觀覽せらるれば、鬼を欺く水兵が、覺束な氣に摘み針て、熱心に裁縫をしてをる奇觀を見る事が出來るのである。（嗣出）

○白砂青松　松浦の風光（つゞく）

肥前　會員　田村梅能子

松浦潟　わらはは松浦がたの風光を、諸孃に紹介せんと欲す。そも〳〵松浦潟とは、肥前國の日本海に面せる、海濱の總稱にして、其長さ壹百數十里に亘れる間をいふ。今別れて四郡となり、東松浦西松浦の二郡は、佐賀縣に屬し、南松浦北松浦の二郡は、長崎縣に屬せり、然して東松浦は唐津地方にして、西松浦は伊万里、北松浦は平戶、南松浦は五島なり。わらはが諸孃に紹介せんとするは、此松浦四郡の全体にあらずして、專ら佐賀縣の東松浦、即ち唐津地方の山水風光なり。

此地往昔より、婦人に關して名高き古跡多し、畏こくも神功皇后御征韓の遺跡として、已に世上に喧傳せし玉島川あり。鏡山は一名領巾振山と稱し、松浦小夜姫が望夫石を遺せし所なり。これは皆過ぎし昔のことゝなるが、今現に愛國婦人會の主唱者として、有髯男子を後へ瞠若たらしめ、其名已に韓山唐海を壓倒するの氣慨ある、奥村五百子刀自の郷里こそ、實に此東松浦郡の中心なる唐津町なれ。諸孃よ、諸孃は、此古今絕倫なる、偉勳を奏し給ひし、息長足姬尊、及び貞操の可憐女、松浦小夜姬、並に廿世紀に於ける東洋の烈婦、奥村五百子の三者が、此松浦の地に、最も深く關係ありしことを知り給はば、胸中直に、松浦の山河を聯想せらるべし。苟も常識あるもの、誰か其地の風光を聞くを願はざらん、又誰か身自ら其地を見るを欲せざらん、之れわらはが文筆の拙劣なるをも顧みず、業務の餘暇を偸みて書き綴り、諸孃に紹介するの强ち無用の業にあらざるを信ずる所以なり。

九州鐵道　凡そ不知案内の地理を說明するには、先づ第一に標幟を建て、基點を示すを便とす、故にわらはゝ九州鐵道を利用して、唐津の地を指示すべし。

九州の咽喉たる、門司に上陸し、九鐵赤切符代壹圓拾七錢を拂ふ時は、一聲の滊笛と共に列車をかりて西行し、五時間を費して佐賀縣の佐賀驛に達し、尙貳哩計りを進行して久保田驛に至り下車すべし。久保田驛より腕車を傭ひ、四十錢を投せば凡四里を馳て筋原驛に至るべし。（此四里間は九鐵と唐津鐵道間の未成線に屬せり。近頃九鐵にて唐鐵を買收したれば、此間も明年中には竣工の目論見なりといふ）筋原驛は九鐵唐津線の盡頭なり、赤切符代廿四錢を投じ滊車に打乘り、僅に一時間餘を要せば、唐津町に達す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よし、申出でられたりと云ふ。自は、自己の意匠を凝し有名なる洋畫家〔[illegible]〕井臣一氏に囑して、皇宮御繁榮の状を拜寫せる油畫を造り、其日之を宮に獻じたるが、其畫は日に[illegible]に映れる景色の中に 皇后陛下を、山に象れる青緑色中に 皇太子殿下を、水に映れる清瀾色中に[illegible]子[illegible]、此子七星の形[illegible]こ畫[illegible]美麗なるもの[illegible]

愛國婦人傳

老女村岡の傳（承前）

評議員　下田歌子

村岡女史は罪人の物すなる、網乘物に身を揺られて、立ち出づる門出にも、我身は朝家の屬僚、幕吏が私しすべき人にあらず、況んや、未だ其罪の有り無し、定まりたるにもあらぬを、何の爲に、斯かる忌はしき物には、召し乘せらるるぞ、前にも云へるが如く、御身が逃げよとの給ふとも逃ぐる者にあらず、隱れよとの給ふとも、何しに隱れ申すべき、たゞ通常の乘物して、人一人二人附け給はゞ、わたら費用もかゝらざるべきに」と云ひたりしかども、幕府には幕府の掟ありて、我等が私しに變更すべきにあらず、曲げて是に召されよ。とありしかば、「さらば、御身がまに〳〵たるべし。御免あれ。」と挨拶して、靜かに京を離れにけり。斯くて日に歩み、夜に宿り、東海道五十三次の驛路、名に聞きて、見まく欲りせし、富士の根の雪、思ふこと無くて仰がましかば、いかに面白くも愛たくも覺えぬべきを、幾その人の上を思うして、罪無き罪に殺しつる、虐政暴威を逞ましへば、我が身も亦淺間しき東の獄に、朝の露の消えを爭ふ命にもやと、覺悟をしては中々に、憂きを憂しとも思はぬにや、此所は何といふ所ぞ、彼所は何と呼べる邊りぞと、網乘物の裡より聲をかけて、左も初旅路珍らしく、物見遊山に出でたつ人の樣に、物問ひかけらるゝ度々、警固の武士等は顏見合はせて、さても〳〵、何處迄膽太き老女やらんと、驚き思はぬはなかりけり。斯くて、日數經て、江戸に到着したりしかば、例によりて、頓て獄舍には繋がれたりしかども、こは五攝家の隨一たる近衞公が御內人なればとて、幕吏も他人のやうに、酷き取り扱ひはせず、万づに心をつけてけり。さて數日の後、引かれて白洲に出でたりけるが、法官先づ口を開きて、嚴かに詰問すらく「薩摩の浪士西郷隆盛、僧忍向等を手引きして、近衞公に謁見せしめたるは、汝が計らひか、將た、公の仰せか。其れより、密談對話の度數及び其事柄等、露許りも藏む所なく、隱す所なく、ありの儘に申したてよ。若しいさゝかにても、其實に違ふ事あらば、汝も亦重き罪科免る可らず。」と云へりき。大抵の男子にてだに、當時の白洲に臨む時は、先づ其事のありさまに、膽を奪はるゝが常なり、況て左右に置き列べられたる栲具の數々、見るに目もくれ心消えて、其答へさへ前後を失ふが常なるに、女史は更に恐れ挽む所なく、端然として坐しつゝ、其言の終るを待ち居たりしが、徐かに首を擧げて、屹と法官の顏を仰ぎ、忽ちゝ、と打ち笑ひて、「アラ笑止や。御身達は、などて、さる怖き顏つきして、わらはを睨み給ふらん。年も行かぬ者ならばこそ、驚きもせめ、恐れもせん。我等が若く、老いさらぼひて、はや棺桶に片足を入れつゝ、彌陀の迎へを待つ程の身に、何の厭ひ、何の惜しかるべき事かあらん。あたら、力瘤入れずとも、寛如と打ち解けて問ひ給はゞ、知りたる事は云ひもせん、答ふべきは答へもせん。されど、云はじ答へじと思ふ事は、よし縦令骨をひしがれ、肉を削らるとも、えこそは云はじ。答へもせじ、嗚呼なる人や。」と冷笑へば、法官クワッと激怒して、「ひか〳〵召され、此所を何處とか思ふらん。忝くも天下の法庭、若し事實を隱蔽して、云はじとならば、云はせて見せん。女性と思ひて、手ぬるく云へば、附け上りたる雜言過言、容赦はならじ」と、威を示して、攻道具に眼をくばせつゝ、栲問になわひそとの意を示せり。（つゞく）

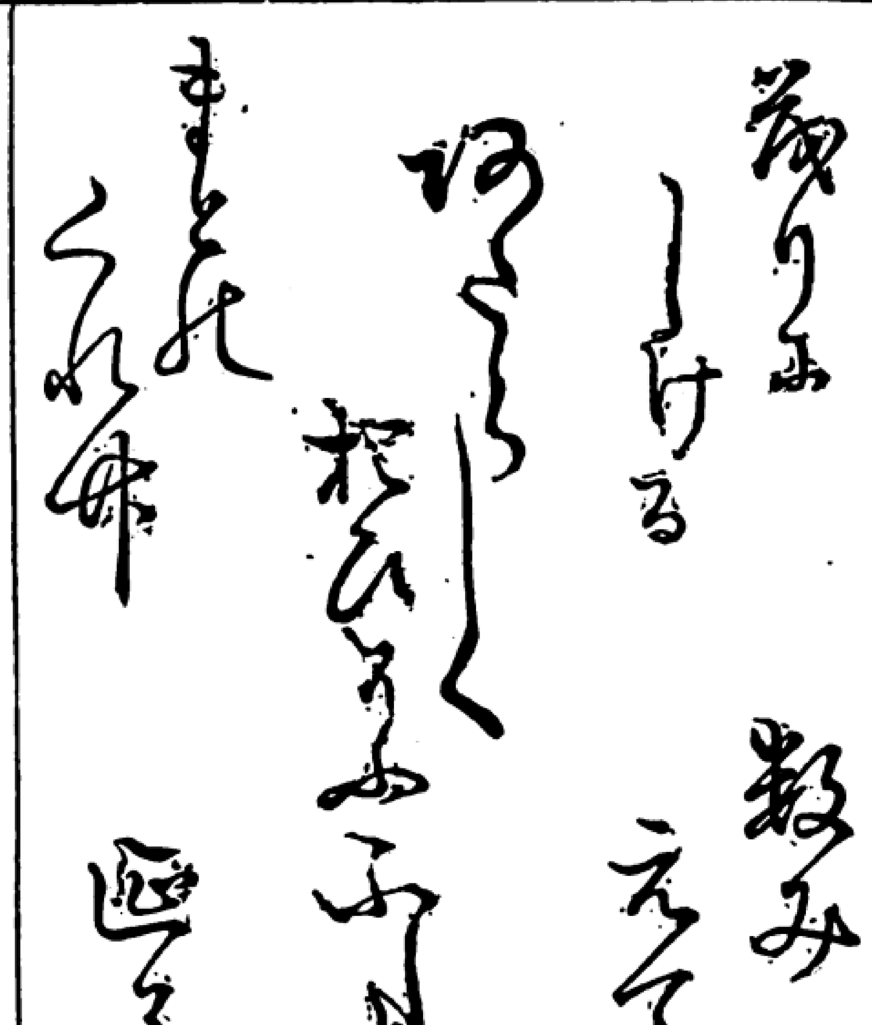
童話　塵も積もれば山となる

月廼舍かつら

甲斐の國は甲府市の近傍こそ頁田の廣く續いた原野であれど、四方は嶮しい山で圍まれて居る。東京から行くには甲武鐵道で八王子まで、それから中央鐵道で猿橋の二里手前まで行き、それより先きはまだ鐵道の工事中であるから、名高い笹子峠と云ふ三千五百尺もある山を越さなければならぬ。又東海道鐵道の御殿場驛で下り、それより須走の方へ馬車で行っても、御坂といふ五千尺の山越がある。

昔武田信玄が此國を領して居ッて、甲斐の信玄越後の謙信と云ッて、二人の入道が常に戰ッて居ッたのであるが、それにも拘らず、信玄は城を築いて居らなかッた。「乃公が居る間は誰も攻め入る事は出來ないから城を築く必要はない」といふて威張ッて居ッたさうな。其實信玄の偉いのよりも、山が嶮くて天然の要害が堅固である爲に、容易に攻めて來られぬのであらう。

斯樣に山に圍まれて交通の惡い土地であるから、商賣にも骨が折れる。貨物を出すには東海道の方へは富士川の川船で下す事が出來るが、其他は山越してなければ仕方がない。それ故に金を儲けるに大層骨が折れるのである。其にも拘らず、甲州は富んで居ッて大層金滿家があるのは實に不思議である。然し其譯を能く考へて見ると、交通が不便であッて金儲けに骨の折れるのが却ッて金滿家となる原因であらうと思はれる、即ち骨を折ッて



評議員　子爵夫人本多延枝子筆

取ッた金であるから、大事にして貯蓄するからであらう。金と云ふものは骨を折ッて取ッたのでないと溜るものではない、泡錢は身につかないものである、相場などで儲けた身代といふ者は永く續くものではない。

甲州の第一流の財產家に大森慶次郎といふ人がある。金もあり學問もあるが、誠におとなしい手堅い人である。此人の先考さんは大層貯蓄心に富んだ人であッたさうな。其先考さんが慶次郎氏に身代を讓られる時に、かねて貯へて置かれた反古を賣拂はれたら三百圓程になッたさうな。さて先考さんは慶次郎氏に對ッて、『塵も積れば山となる』と云ふ諺は此事だ、何んでも物を粗末にせぬといふ心掛がなければ身代を守ッて行く事は出來ぬ萬事能く氣をつけなさい、と言はれたさうな。而して其溜めてあッた反古は、字の書ける樣な白い處は皆切取ッてあッて、極々小さい切端ばかりであッたさうな。此話は實に甲州で一つの美談となッて居る。反古でさへ其程溜めてある位だから、金は何程澤山あッたかも知れない。尤も子供に敎訓する爲に態々反古が溜めてあッたのかも知れないが、兎に角斯樣な心掛の善い人の子であるから、慶次郎氏は間違のない人であると云ふので、其一己で設けて居られる大森銀行と云ふのは、信用に富んだ手堅い銀行であるさうな。

東京でも『反古を戸外に捨てると貧乏する』と云ふ訓言があるが、戸外へ反古を捨ると第一反古を賣るとも出來ず、戸外が散らかりもするから、掃除に二重の手がかゝるからである。是は直接の損であるが、それは些細なこととしても、反古を外へ捨てる樣な不しだらな事では、一家の整理は出來ぬからである。貴婦人方の組織されて居る婦人育兒會といふ會では、反古や硝子の屑片など不用なものを賣ッた金を集めて、世にも憐れな恃む所のない兒童を教育されるさうな。此愛國婦人會の趣意は、半襟一掛だけ儉約して、戰死者の遺族や負傷者を救護したいといふのであるが、一年に一圓位の會費は反古などの賣溜でも隨分足りるであらうと思はれます。

附言　童話は直に見童に解る樣に、やさしい語て書くのが宜しいのですが、此一篇はむづかしい書方となりました。母たり姉たる方が御讀みになッて、其意味を御子達に話し聞せていたゞきたい。

詞藻

時鳥　宮崎　四屋やす子

けふもまた木のめつみにてうみはてぬ時鳥たになきてきかせよ

岡　愛知　中村とき子

月もよし垣のうつきも咲初めぬ山郭公ひとこゑもがな

早苗　愛媛　鈴木あき子

あしひきの山田の早苗とり〳〵にうたへる歌のいさましき哉

田植　東京　木村せつ子

小山田に田うたうたふ聲すなりはやうゑつけの始めなるらん

梅雨　埼玉　中川よね子

大島の畑も見えす浪あれてさみたれわひし大磯のさと

海邊夏月　愛媛　近藤頼子

うみを出て海にいりぬる月みれは夏もよなかきものこそすれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

○家事要領

○家事衛生　第一育兒(つゞき)

一斷乳　齒の生え初むる頃より、斷乳の用意として乳の外に粥ソップ等を少しづゝ與へ、次第に普通の食物に馴れしむべし。齒の生えそろひて咀嚼に差支なきに至り、乳を全く廢して普通の食物のみ與ふべし。乳を斷つにはキニーネを少しばかり乳首に塗りて哺ませ、最早乳が苦くなりて飮むことを得ざるものと諦めしむべし。

一菓子　菓子は砂糖分少なき粉質に富めるものを食せしむべし。總じて小兒二歳より六歳までは、消化作用盛にして、滋養分を多く要する時期なれば、大人よりも食時の度數を增し、四度も食事せしめて可なり。但し食事を三度として、其間に菓子を與ふるもよし。

一睡眠　小兒は割合に多量の養分を食し、睡眠中に身體を構造するものなり、故に長く睡眠するを要す。生れたる當初は、殆んど終日睡眠するものなり。成長に從ひ漸次其時間を減じ、二三歳の者は十二時間、四歳より六歳までは十一時間、七歳は十時間、十歳は九時半、十二歳は九時、十四歳は八時半、其以上は七八時間にて可なり、而して學齡前の小兒には、右の睡眠時間中にて二時間餘り午睡を爲さしむるをよしとす。

一衣服　小兒の襯衣は白木綿を可とす。子供は風の子と云ひて、薄衣にて寒に堪へしむる樣にするは一理あることなれども、餘り極端なるは害あり。殊に月足らずにて生れたるには、湯婆等を用ゐて溫むべし。初生兒の外は頭巾は不用なり、衿等も纏ふべからず、成るべく新鮮の空氣を肌に觸れしむれば、皮膚丈夫となるべし。袖口袖付け等をゆるやかに仕立て、附紐の位置を高きに過ぎざる樣注意し、且つ之をゆるやかに結ぶべし。

一入浴　初生兒は每日入浴せしめ、腋下臀部等に爛れを生ぜざる樣にすべし。溫浴は小兒を安眠せしめ、輕き風邪をも治するなり。海水浴・冷水浴は成長せる者にあらざれば宜しからず、游泳も高等小學に入るべき年齡までは行ふべからず。

一躰重　小兒の發達に從ひ、躰重の增加する割合を知るとは、小兒發達の良否を知る標準とする爲に、甚だ必要なれども、我國にては未だ十分なる統計なし。歐洲人の調査に據れば、生後一週間にして普通小兒の躰重は八百七十目許ありて、・五ケ月の後凡そ二倍に達し、十二ヶ月の後凡そ三倍に達するものとせり。

○裁縫の寸法

◉蚊帳

○蚊帳に母衣蚊帳・枕蚊帳又は四六・五六・七八・七十などいろ／＼ありますが、母衣蚊帳は竹を半圓に曲げ母衣の樣になし、之に合せて切地を裁ッて縫ひます。裾口に半巾か三つ割の縁を一重付くるのです。枕蚊帳も竹を四角に曲げ、丈二尺五六寸巾一尺八寸高さ一尺三寸位になし、之に切地を合せて絎縫し、上の四角にはヒウチを入れ、又上の廻りに巾二寸位の縁を絎付け、裾口にも半巾の七切のを付けます。而して四六の蚊帳なれば丈五尺、八は丈五尺五寸、七十は丈六尺位に致します。

○積り方は　七八なれば七と八とを合せて二倍したるものを丈の五尺五寸に乘じ、而して又天井の切は七に八を乘け、(普通一幅一尺位なれば)此二つを加へて用布を知るのであります。

○縁の切は　紅麻を三つ割にして付け、天井の四角及中釣に木綿巾四方を斜に裁ちて之を付け、裾口にも木綿一巾を縫付けます。但し上等の蚊帳なれは、透綾等を以て製し、縮緬或は緞子等を縁及裾口に付け、又釣手の處に紐を綴付くるのであります。

○蚊帳の刺方は　先づ一布づゝ刺し(蚊帳はクシ縫にせずして刺縫にいたします)衣服の背縫のやうに折を付け、周圍を刺し、裾口を三つ折にして刺し、次に天井の切をも刺し、次に火打及中釣の切を綴付け、次に縁の切に赤色の心を入れ、之を縁と共に天井の切に刺し付け、次に此縁を廻りの切に絎付け(四角の處は一布づゝ廻りの切のみに絎付けるのです)次に裾口に橫幕切を付け、次に釣手の紐を千鳥懸に綴付け、裾口の釣手の通りの處に乳を付けるのです。

◉男帶

○男帶の絎方は　先づ伸縮を直し、表を中にして巾を二つに折り巾の印をなして其所に折を付け、而して帶心は帶皮の縫込だけ狹くして裁切り、心の方に裏綿を引きて帶の上に載せ、縫糸を二つに割るか又は羽二重糸にて表の方に針目の見えぬやうに心を帶に綴付け、次に兩端を返縫になし、心を縫込だけ短くして綴付け、引返して所々へ待針を刺し、針目を極く細に絎け、然る後疊みて壓を置くのて在います。

◉女丸帶

○女丸帶の仕立方は　初に品の伸縮を直し、表を中にして巾を二つに折り、布縁の方は二枚共に躾糸を掛け、帶の巾印をなし、其印の所を片返の返縫にして縫ひ、眞中を一尺程縫ひ、明けて置きます。(片返とは針を一分前へ出しては五厘後の方へ返して一針の半分を返縫にする縫方の事です。)次に縫目を左右に開き、熨斗にてのしつけ、次に兩端を返縫になし、角は初め兩端の縫込を折りて橫の方をさきに堅の縫込に綴付け、次に堅の方の縫込をよく綴付け置き、而して心は帶の縫込だけ狹く裁切り、心の方に眞綿を引きて帶の上に載せ、糸を二つに割りて之を以て心を帶に綴付け、次に眞中の一尺の所より手を入れて引返し、縫目を正しくして躾糸を掛け、眞中の縫殘したる所を細に絎け、然る後に疊みて壓を置くのであります。

◉女鯨帶

○繻子と博多との鯨帶を仕立つるには　先づ品の伸縮を直し、表と裏とを合せ、周圍を躾糸にて綴付け、次に巾と丈とに印をなし、其印の所を片側だけ眞中を一尺程殘して縫ひ、折目は博多の方へ返し、四角の縫込は橫の縫込をさきに堅の方を後にしてよく綴付け、而して心の巾は帶の巾より一分狹くして裁切り、又他の一枚の心は帶の兩側の縫込だけ引きて裁つのです。(之は二枚心の時の仕方であります。)次に心と心とを揃へて綴ち、其上に眞綿を引きて博多の上に載せ、繻子の方へ程よく綴付け、次に又一方にも眞綿を引きて眞中の縫殘したる所より手を入れ、角を持ちて引返し、縫目を正しくして針目を五六分位に躾糸を掛け、縫殘したる所を細に絎け、然る後疊みて壓を置き、仕揚をするのであります。但し厚い織物のときは總て此仕立方を用ゐるが宜しう在います。

○女禮談片

婦人は其心ばへこそ雄々しくわらまほしけれ、其起居動作はいかにも優美ならざるべからず。英國の偉人グラッドストーン氏曰く、女は女らしからざるべからずと、されば國の東西を問はず、世の古今を論ぜず、婦人は姿やさしくけだかきこそ、貴けれ。我が愛國婦人會々員の君達は固より女禮のたしなみ深くおはすべけれど、年若き姬だち、將た侍女などに、女禮を練習せしめ給ふ折の參考にもと、其片はしを次々にものすべし。

○人の前を通る禮　人の前を通るは失禮なりと思ふより、背後を通らんとして、人の座と壁又は障子・唐紙等の間の通るべき餘地なきをもかへりみず、强ひて此處を通る人あり。是等は大なる心得違ひなり。勿論人の前を通るは失禮ならざるにはあらざれども、他に通るべき道なき時は如何にともすべきとなれば、成るべく人前に遠ざかり、且つ物靜にして袖・裾等の追風のたゝぬやう注意し、ソト會釋して通るを可とす。然るに强ひて背後を通らんとする時は、其餘地なきため、過ッて其座し居る人の裾又は袖などを踏む人さへあり。實に無禮の至りといふべし。又其背後を通らるゝ人は、是が爲に或は前に屈み或は座を避くるなどせざるべからず、是等は前を通るよりも却ッて大なる無禮なれば、能く其場の模樣等を見はからひて、適當に振舞ふべきなり。　(つゞく)

○日常の心得艸

○飯の腐敗を防ぐ法　飯は炊きて飯櫃に盛る時、梅干三四個を其內に入れ置くべし、能く腐敗せざるを得るなり。

○腐敗せざる糊を作る法　まづ水五合のうちに、一匙の明礬をとかし、生麩を入れ、攪拌て火にかけ、更にアラビヤゴムを少許加へて煮つめ、出來上りたる時他の器にうつすべし。冷き處に置かば一年位は保存し得べし。殊に夏期には最も便利なり。

◎會員の美談

）[illegible]ら子　三重縣安濃郡建部村大字乙部市野かなる小間物行商を營み、時に知己の旅店に傭はれ、漸く其の日の生計を爲し居るものゝよしなるが、過般奧村氏の講話會に臨み、太いに感心を以て今後如何なる境遇に遭遇するも測り難きにより、一時納金すべしとて、貯蓄中より金七圓を出だし、通常[illegible]となれり。かゝる篤志の婦人にり、[illegible]謝狀を送りたり。

○三重縣警部長令嬢の美事　兒玉同縣警部長の令嬢は此程父君より帶地買入れの相談ありしをりか實し、帶地購入費を節し、一時金拾五圓納むべき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎會員の美談　三重縣安濃郡建部村大字乙部市野[illegible]伊くら子[illegible]かなる小間物行商を營み、時に知己の於店に傭はれ、漸く其の日の生計を爲し居るものゝよしなるが、過般奥村女史の[illegible]會に臨み、大いに贊成を以て今後如何なる境遇に遭遇するも渝り難きにより、一時納金すべしとて、貯蓄中より金七圓を出だし、通常會員となれり。かゝる篤志の婦人により、[illegible]狀を送りたり。

◎三重縣警部長令孃の美擧　兒玉同縣警部長の令孃は此程父君より帶地買入れの相談調ひしをりか贊し、帶地購入費を節し、一時金拾五圓納むべき

宮庭錄事

○恩賜義手足の御修覆　廿七八年役臺灣諸役及び北淸役の負傷者に　皇后陛下より義手足の恩賜ありしが、此の程　陛下には侍臣に仰せらるゝやう、人は年齡によりて身躰肥瘠の程も變り、又屈曲の度も更るものなれば、先年の義手足中既に肢躰に適せずなりしもあるべく、或は破損したるもあるべく、專門の技師と軍醫官とを派遣して一々實檢修覆し遣はすべしとの恩召あり、目下其調査中の由。義手足の恩賜を辱うせるものは百三十餘名にして、全國に散在し、悉く取調べ檢修するとは非常の手數と費用とを要すべきが、それは總て御手許より下賜せらるゝ都合なりと承はる。（別項石黑男の談話參照）

○宮中の御養蠶　皇后宮の蠶室は御苑內に在りて陛下畏くも親しく御手から蠶兒を作らせ給ひ、昨今は已に悉く繭となり、其量凡そ五斗餘にて結果大に好良なり、常宮周宮兩殿下にも　皇后陛下より蠶種を贈らせられたれば、佐々木伯令孃主となり侍女を督し、養蠶遊ばれたる結果六斗餘の收獲ありきと、又皇太子妃殿下にも同じく皇后陛下の御勸めに由り、御懷姙なるにも拘はらせ給はず、女官をして從事せしめられ、同じく結果を得給ひきと。殿下には曾て養蠶てふ御題にて『かきりなきみくにのとみやこもるらむ、しつかかふこのまゆのうちにも』との御歌あり。

○東宮殿下　殿下には東北御巡啓の上御還啓の後、輕微なる御風氣にて、御假床に入らせられたるが、最早御全癒遊ばされ、去にし十九日葉山御用邸へ行啓相成りたりとぞ。

○東宮妃殿下　殿下御分娩の上は、皇室誕生令七條により、御產所に參候すべきは德大寺・田中・花房の宮內官吏の內なるべく、御敎育主任は川村伯と定まりたるよし。尙御分娩後御乳母三人御めしかゝへあるよしにて、二十歲以上三十四五歲以下の婦人にて、本年四月末より六月上旬までの間に分娩し、躰格强壯血統純良のものを、身分の如何に拘らず、御探索中の由。希望の者は麻布なる川村伯邸へ申出づべしとの事なり。（六月廿一日拜記）

○小松宮殿下　殿下は英京倫敦御着後、我皇帝陛下に代り、故ヴヰクトリア女皇陛下の墓所に花環を供へられたる由。

◎奥村五百子刀自遊說日記（承前）

五月廿六日　愛知縣碧海郡大濱町西方寺にて演說す來會者一千餘名、石川入郎二、淸澤滿照の二氏非常に盡力せられたり。

同　廿七日　午前九時大濱町出發、同十一時西尾町に着す、午後東本願寺別院にて演說會を開く、郡長初め郡役所員の非常なる盡力に依り、聽衆一千七百餘名に達し、即時に特別會員七名、通常會員拾五名を得たり。

同　廿八日　午前九時出發、十一時半額田郡岡崎町に着す。昨日來今朝出發迄、入會者總計三十一名に總せり。午後東本願寺三河別院にて演說す、四五日前より郡長同夫人及び別院住職諸氏の奔走の結果、聽衆二千五百餘名、非常の盛況を呈せり。

同　廿九日　午前十一時發列車にて出發、午后一時渥美郡豐橋町に着し、本願寺別院にて演說す。聽衆一千五百餘名、其主たるものは步兵第十八聯隊長石原大佐、同夫人、安井中佐、佐々木少佐、山本軍醫正、土橋、佐藤、淺田、秋山の各大尉、土川、鳥居、森下の各中尉、本會評議員原旅團長夫人、郡長夫人、其他將校夫人三十六七名なり。郡長夫人は四十名餘の會員を勸誘せられたり。午後六時發車名古屋に向ふ、安井中佐、佐々木少佐、郡長及郡書記等見送られたり。午後八時半名古屋に着す。

同　三十日　名古屋市滯在。

同　三十一日　午前八時出發、午后一時三重縣津市に着し、直に一身田高田本山を訪ふ。

六月一日　午后二時津市なる三重縣會議事堂に於て演說す。木岡濟參事官は知事及び書記官に代りて盡力せられ、其他市長、市會議員諸氏の奔走により、聽衆一千餘名に達し、即時入會者三十餘名ありたり。

六月二日　午前九時阿漕停車場より發車、同十一時山田に着し、郡會議事堂にて演說す、聽衆五百餘名也。

同　三日　午前六時五十分山田を發し、正午伊賀國上野に着し、寺町念佛寺にて演說す、聽衆五百餘名、即時入會者三名、郡長同夫人、郡書記諸氏大に盡力せられたり。

同　四日　午前八時上野を發し、同十時四日市に着す。當日の演說會場は四日市々役所樓上にて聽衆五百餘名、即時五名の入會者あり、又太田覺眼氏も五六名紹介せられたり。此日名古屋より、志水はま子、熊谷ゆき子、藤田さゝ子、守島龜代子、片野こと子、津市よりは副幹事長大野信子、太田よね子、杉村しま子、直村長子及び知事代理として加藤視學官いづれも出張せられ、大に盡力せられたり。

同　五日　午前十時五十分四日市出發、加藤視學官、市長、市役所員數名見送られ、桑名よりは特別會員二井米子出迎はれ、同十一時桑名着、停車場には郡長縣屬の外、嵯峨病院長夫人等出迎はれたり。午後常信寺にて演說す、聽衆一千二百餘名大に感動せり。二井嵯峨の二夫人及び郡役所員一同大に盡力せられたり。

同　六日　昨五日桑名を發し午後横濱に着し一泊す。

同　七日　横濱會館にて演說す、聽衆二百餘名參事官視學官大に盡力せらる。

同　八日　同く横濱會館に演說す、書記官の贊成演說あり、本會幹事等の來會多かりき。

同　九日　午前九時三十五分横濱を發し、同十時三十分歸京す。

（完）

愛國婦人會記事

◎第一の組評議員會　去にし十一日（水曜日）本部に於て開會、出席者は一の組評議員松前藤子、千家俊子、伊集院繁子、棚橋絢子、鄭濱子、中山幸子、島田信子、の諸夫人及び相談役堀內陸軍少佐、增田海軍大尉、會計監督佐藤正の諸氏出席し奥村刀自巡回中に於ける諸種の報告あり、後東京市內幹事總會開會の件につき協議を爲し午後五時頃散會せり。

◎東京支部幹事會　去にし十九日午後一時より九段偕行社に於て東京支部幹事會を開く、千家東京府幹事長を始め仁杉歌子、岡部堪子、松平須磨子、松平久子、鄭濱子、濱尾作子、山脇房子、中山幸子の諸評議員其他各區の幹事二拾餘名來會し幹事會を每月開く事、集金の方法等に付き評議し午後四時散會せり。

◎評議員の增加　今般會長より左の諸夫人方を評議員に推薦せられたり。

寺內陸軍大臣夫人　寺內瀧子
鮫島海軍中將夫人　鮫島峰子
豐島陸軍少將夫人　豐島文子
木村陸軍少將夫人　木村豐子

◎福岡縣會員募集の景況　同縣は深野幹事長の下に谷口副幹事長あり、外に幹事四十六名あり。六月五日支部幹事武田つね子、岡部さき子の兩女史は小倉市役所に於て市長を訪問し會員募集の事を依賴し行橋に向け出張し五六日後再び小倉市に來り會員募集に盡力せり。

◎奥村女史の歸京　本年四月十四日以來關西地方を漫遊し熱心勸誘の結果、京都滋賀岐阜愛知三重の一府四縣下において數千の會員を得て去る九日歸京目下靜養中なるか來月上旬頃より約二ヶ月の豫定にて再び北海道に遊說する豫定なり。

◎大谷相談役　相談役伯爵世嗣大谷光演氏は去る二十日正五位に叙せられたり。

◎評議員總會　去にし二十一日九段偕行社內に於て、評議員總會を開きたり。出席者は島津理事谷理事を始めとし、松前藤子、松平須磨子、伊集院繁子、棚橋絢子、中山幸子、後閑菊野子、島田信子、本田延枝子、嘉納須磨子、佐方鎮子、下田歌子、仁杉歌子、澁谷和知子、伊東美津子、高木富子、柳谷千代子、鄭濱子、弘田增子、岩佐德子、高木鐐子、岡部堪子、松前光子、浦田縫子、山本多保子、松村琴子、佐藤猶子、坂井春子、三輪田眞佐子、の諸夫人にして、席定まるや下田歌子は、島津理事に替つて議長席に付き、當日の評議案たる左の事項に付て審議を爲し夫れ〳〵決定せられたり。

第一號案三十五年後半期間經常費豫算（可決）第二號案本會常用の幕幷にフラフ灯燈等に用ゐる紋章の件（可決）第三號案各支部に副幹事長三名と定むる件（三名以內に定むる事に可決）第四號案特別幷に通常會員にして中途より一時金拾五圓又は七圓の部に移轉せんとするときは三年間に於ける分は之を許し四年以上は依然拾年出金の部を以て差引く可き件（可決）第五號規則修正の件（修正の上可決）

以上議決の外夏期中は水曜會の評議員會を開かぬ事に決定せり。

當日の第一號議案左の如し。

明治三拾五年後半期間經常費支拂豫算明細書

一金八百貳拾貳圓　經常費
　內
金貳百參拾壹圓　給料
　內
金七拾貳圓　事務員壹名六ヶ月間給料壹ヶ月拾貳圓
金六拾圓　同金拾圓
金六拾圓　雜務掛壹名六ヶ月間一ヶ月金拾圓
金參拾九圓　小使一名六ヶ月間一ヶ月金六圓五拾錢
前半ヶ年間ノ豫算高ニ對シ金四拾五圓增加ス其理由ハ拾圓ノ事務員一名ヲ拾貳圓ニ六圓ノ小使ヲ六圓五拾錢ニ又三ヶ月間雇ノ雜務掛ヲ六ヶ月間雇ヒ入ルヽ爲メナリ
但雜務掛ヲ六ヶ月間雇入ル譯ハ本願寺ヨリ助力ノ事務員一名ヲ解雇サレタル爲メナリ
金百六拾五圓　借家料
　內
金百六拾五圓　借家料半ヶ年一ヶ月金貳拾七圓五拾錢
前半ヶ年間ノ豫算高ニ對シ金四拾五圓增加ス其理由ハ從來一ヶ月金貳拾圓ノ處以來金貳拾七圓五拾錢ニ增加シタル爲メナリ
金七拾貳圓　筆紙墨費
　內
金七拾貳圓　筆紙墨代半ヶ年間一ヶ月間金拾貳圓
前半ヶ年間豫算高ノ通リ
金參拾圓　雜費
但經常費內ニ於テ甲乙流用セハ差支ナキ見込ナリ
　內
金參拾圓　[illegible]茶[illegible]其他雜品代半ヶ年間一ヶ月金五圓　前同斷但書共
金百五拾圓　郵便電信料
　內
金百五拾圓　郵便電信料半ヶ年間一ヶ月金貳拾五圓　前同斷但書共
金貳拾四圓　器具費
　內
金貳拾四圓　備品ノ買收及破損品ノ修理代半ヶ年分一ヶ月金四圓　前同斷但書共
金百五拾圓　車代
　內
金六拾圓　事務用ノ爲メ乘用車代半ヶ年間一ヶ月金拾圓　前同斷但書共
金九拾圓　奥村五百子本會用乘用車代半ヶ年間一ヶ月金拾五圓
前半ヶ年間ニ在テハ該費ハ本願寺ニテ負擔ナリ居タル爲メ豫算ノ設ケナキモ以後本會ノ負擔ニ歸スニ依テ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎婦人論梗概

◉西村茂樹氏の「女子の樂み」　人は其樂む所によりて其人物の高下を知ることを得、故に人は最も其樂しむ所を愼まざる可らず。人の樂は男女によりて多少の相違あれど詩書山水詩歌等を樂む類は上等なり、書畫音樂圍碁、植物魚鳥等を樂む類は中等なり飲食俗樂演劇等を樂しむは下等にして登樓博奕を樂しむは道德上の罪惡なり其樂の上等なるは婦人も男子と同樣にして何れも才學を長し人品を高くするものなりされども婦人としての職分即ち家政家事を理むることを忘れて是のみに耽るときは害となる也。中等の樂に就て書畫は詩歌と同樣のものなれども動もすれば浪費に陷る弊あるを以て之を中等としたるが此中等の樂は男子はともかく富豪の家ならでは細君が之を樂しむの餘暇なからん且つ其度を過せば皆害となり餘り好ましからざれども未だ其人の品格を下ぐるに至らざるものなれば深く咎むるに足らず。下等の樂は何れも害ありて益なきものなれば婦人は特に愼しまんことを願ふ、而して往々中年以上の婦人に見る所の飲酒の害は第一容儀を損し第二無益の言を發し第三人と口論を起し第四金錢を濫費し第五に品行を破る事等にて男子に於けるよりも其弊や大なり、次に演劇を樂しむは婦人に在ては殊に有害なり何となれば俳優等は世間の人氣に投して己を利せんとするより容貌を裝うて婦人の愛好を惹かんと務め又其衣服調度の美麗なるは人を奢侈に導き其脚色は近來少々改良したれどもとかく淫奔の事多ければなり、而して婦人が之を觀るに方ては技倆脚色を問はず先づ俳優の容貌動作を見て己が心を蕩搖する者十中の八九にして甚しきは我は某々俳優の贔負なりと公言して恥ぢざるもの あり又此の如き醜態をなさゞるものも觀劇はとかく奢侈又は浪費多し凡そ淫奔奢侈浪費は其一あるも已に婦人には十分の不德なり況や其三を兼ぬるをや誠に恐るべきの至りと也要するに日本婦人が盡く上等の樂を樂しまんことは今俄に望み難し故に姑く能樂を以て演劇に代用せんことを望む能樂は高雅淡泊にして美術思想を養ひ忠孝節義を勸むる處も亦多くかの觀劇に伴ふ三弊なく女德を失ふの患もなし。云々(日本弘道叢記)

◉松平直亮伯の「女子敎育談」　今日中流以上の社會にては女子の年齡十七八にもなれば學校に通學さするは甚だ面白からずとの考より中途にして退學せしむる親還多し而て此者に對する其後の處置如何と云ふに多くは外國語を外國人或は日本人に就て學はしめ或は茶の湯、活花、琴、ピアノ又は和歌の如きは特に敎師を招んで修めしむるもの〻如し、蓋し既に學校を卒業し普通の敎育を終り人の妻たり母たるに足るべき學問を修得したる上必要に應じて是等の藝術を修むるは固より不可なしと雖其未だ然らざるものに在つては徒に一種の通辯人一種の藝人を作るのみに過ぎずして如此女子のみにては到底女子の地位を高むる能はず又其兒童の敎育にも大に影響を及ぼす事なれば甚だ誤れりと云ふべし。故に成るべく學校を卒業せしめて夫の家政學、育兒法等其天職を完ふするに必要なる學科を修得せしむべし若し年齡體格の都合其他不得已事情の爲に退學せしむる時は必ず先づ右の必須科目を相當なる敎師に就いて修得せしめ以て最愛の子女を一種の不具者たらしめざらんことを希望す。云々(敎育學術界)

◉評議員三輪眞佐子刀自の「母親の責任」　女子敎育の目的は要とし母として遺憾なくそのつとめを盡すに足る人物を作るに在り、蓋し責任とは吾が行爲と分限につきて相當の本務を果すを云ふ即ち婦人は單に生理上形體上よりして婦人と稱するに止まらず全く婦人たる天職を盡せばこそ婦人と稱するなれ、故に母親にして已れ一個の利害を考へ利己の爲に責任を果すとせば子孫に對して何の愛かあらん、何の情かあらん、如此は人を以て物品とするものにして寒暑を防がんが爲に衣帶を製し風露を禦がんが爲に邸宅を作ると異ることなし。之に反して母親が其本務を盡すに必要なるものはおのづから出つる愛情即ち至誠にして苦も苦とせず勞とせず全く無我無心にして眼中唯吾子あるのみ決して老後の安逸を貫はんなどの心なきなり。勿論子孫を養育するに道を以てせば自然の結果として遂に不日安樂の報も來らん併しこは母親の期せずして享有すべきものなれば決して褒め子孫を以て我が滿足せしむる方便と考ふべからず必ず完全なる人物となすべき大責任の伴ふを忘るべからざるに往々此責任を盡すべき素養なくして嫁するもののあり甚しきはその責任を知り且つ素養も十分にして尙子孫の敎育を顧みざるものありと云ふ、深く戒めざるべけんや。云々(大日本婦人敎育會雜誌)

◎學事彙報

◉日本女子大學校　同校々舍の一部落成の事は前號に報道したる處なるが、去にし十三日午後二時より落成式を擧れ創立委員會を開き、來賓として桂伯爵臨席せられ、創立委員長たる大隈伯は生徒一同を新校舍に集め、一場の演說を爲し、終りて一同に茶菓を饗し、午後六時頃散會したるよし。尙同校今回の新築校舍の建坪は百拾六坪の二階建にして、從前の校舍と併せ用ひば現在の生徒一同を敎授するに十分なる趣きなり。

◉女子美術學校　本郷弓町の同校に、今回苦學女生の爲に別科を設け、特に授業料及材料費を免除して敎授するよし。

◉女子實學園　明治女學校主嚴本善治氏の新に創立する同園の要領は左の如し。

一、本園は先づ寄宿舍を設置し自活勉學の志ある女生に就き審査の後入舍せしめ之に自活の方法を與へ且つ勉學の途に就かしむ

二、本園に入舍することを許すは成る可く高等小學卒業以上の學力あるものとす

三、假令ひ高等小學卒業の學力なきもの又は一の學務に就學せしむる便方なきものと雖も篤志方正の女生が爲には可成く自活の途を開き園外に於て寄托することを得せしむるの便を工夫すべし之を本園附屬の事業とす故に本園は初めより廣く各方の同情を乞ひて此等希望者の爲めに其途を開かんことを祈るの情太だ切なり

四、本園は別に奬學井に貸費の仕組を設置し尤も有望なる女生の爲に自由に勉學せしむることを希望するも亦切なり是れ本園將來の發達に於て特に期する所の一なり

◉夏期講習會　本年各地に於て開かるべき夏期講習會の今日まで耳にしたる分左の如し。

▲文部省の夏期講習會　高等女學校敎員だちの爲めに七月廿五日より八月十四日迄開會。

▲東京府敎育會の女子講習會　七月廿八日より八月十六日まで、東京府第一高等女學校內に開會、學科は國語、音樂、家事育兒法なり。

▲女子裁縫高等學院裁縫講習會　八月一日より八月廿八日まで神田帝國敎育會內に於て開會、科目は和服洋服の裁方實習敎授法及敎育學、兒童心理學等にして甲組は午前八時より乙組は午後三時より始むるよし。

▲育成會女子夏期講習會　八月一日より同廿一日まで神田中學校內に於て開會、科目は倫理、法制、社會、經濟、敎育、等なり。

▲高知縣女子部講習會　七月廿一日より三十日間同縣師範學校內に開會、科目は理化學實驗、音樂講習の二つなり。

◉東京音樂學校　同校に於て過般執行せし師範部甲種入學試驗は過日結了し、入學志願者百有餘名の內、男子十八名女子十六名採用し、七月始に本入學を許すよし。

◉三輪田女學校　麹町四番町に建築着手中なる同校は工事を督し八月中には落來せしむるよし。

◉東京女子美術學校　神田三崎町なる同校には東京音樂學校入學準備の爲め特別科を設け夏期間講習するよし。

◉新潟高等女學校　六月十八日新築落成式を擧行し、文部大臣代理澤柳局長外五百餘名の來賓あり頗る盛會なりしよし。

◉酒田高等女學校　六月十五日新築落成式を擧行し、來賓百四十名ありたり。

◉大分女子敎育組織會　去る一日大分郡河原內村に於て開會せしよし。

◉高等女學校敎育方針　文部省に於ては此程高等女學校敎育に關し、現行の施設改良點に付き省議決定の上澤柳局長より各府縣知事に通牒せる要領は、一に學校と家庭との連絡を謀る事、二に體育の訓練には成へく團體的のもの、主として戶外に行はるべきもの、三には變体假名習用禁止等の諸事項なり。

◉女學生の宗敎質問會　女子高等師範學校生徒數名並に女子大學生徒中の有志者は此程より毎月第一第三の兩日曜日午前九時より中六番町白蓮社島地默雷氏邸にて質問會を催す由にて講師は島地氏村上專精氏等なり。

◉女學界の四流行　一は紫蓋帽子にリボンを懸けたるもの、二は蝦茶袴に摺模樣の入りたるもの、圖樣は春の野の早蕨又は光琳の梅の類、三は平行透かしほりの簪、四は三枚裏の草履。

◉女子留學生の來朝　支那より此程八名の女子留學生來り、四名は華族女學校に入るの豫定にて、下田歌子女史の門に入り、他の四名は小學を經て女子師範學校に入るの豫定にて小石川區の吳雅暉氏の門に入りたるが、監督者たる下田女史の談話によれば、日本婦人よりも沈着莊嚴にして、行住坐臥活潑にして敎育すれば好成績を得べしとぞ。

◎婦人會彙報

◉女工携帶乳兒保育會　今回板垣伯其他有志者に由て創立されたる同會は事務所を女子同情會館內に設置し廣く婦人間の贊成を求めて可憐なる携帶乳兒を庇保し乳養の道を開かん目的なりと。

◉慈善音樂會　明治女學校主嚴本善治氏が今般新に計畫せる苦學女子實學園新築のため、來る廿八日廿九日の兩日東京音樂學校演奏堂に於て開會するよしにて、貴婦人方の贊成も頗る多きよしなれは定めて盛會なるべし。

◉橫濱の慈善市　來る廿八日頃周布神奈川縣知事夫人其他同市有志婦人の催しにて開會するよしにて、目下滯京中なる能書鎭尉童女も同會に出席し、席上揮毫を爲し、其收入を同會に寄贈するよし。

◉築地本願寺內の令女會　同會毎月の例會を去にし十一日午後一時開會せり。出席者は毛利公爵母堂三條公爵母堂九條公爵夫人鍋島侯夫人以下百數十名にして、老法主の親數ダンマパラ氏は印度の各地に現存せる佛陀の故蹟及び釋尊の生涯を面白く敍し了はられたりとぞ。

◉第四回不幸女會　去る廿二日午後一時より下二番町成女學校內に開きしよし。

◉京都婦人會の講演　京都市下京區南小路四條敎會に於て此程婦人講演會を開きしよし。

◉長野婦人會　同市城山館に於て此の程開會し演說餘興等ありたり。市內の重立ちたる商店には、同會の依賴により慈善市を催しゝよし。

◉藝備婦人慈善會　廣島市の官民有志夫人等の組織にかゝる同會は、會員より毎月醵金して育兒院の孤兒を救恤しつゝあるが、此程衣服調製の爲め晒木綿を購求し同院へ寄贈せしよし。

◉鳥取縣の篤志看護婦人會　去にし十一日午後一時同地縣會議事堂に於て開會せしよし。

◉火山破裂につき義捐者園遊會　佛領西印度マルチニーク島の火山破裂は近代未聞の大慘事なるを以て、桂伯・田中子・青木子の各夫人方及米、墺、露、伊、の各國公使夫人等の發起にて罹災民救助の爲め義捐金を募集し、去にし二十一日午後八時佛國公使館に於て園遊會を開き義捐者諸氏を招待せしよし。

◎海外彙報

◉婦人服の裾と黴菌の數　英國の一雜誌は古き紙幣中には驚く可き多くの黴菌を含み居れるが、婦人服の裾には更に多くの黴菌を含み居り、或る人の檢したる所に據れば、裾の絲繝の一片に二万六千八百個の黴菌を含み居り、又幅六吋長さ其五倍なる裾の二片には千〇六十七万二千個の黴菌を含み居たりと。而して婦人が裾を地に引擢る際裾に附着せずして地上に亂れ動き人の呼吸するもの若しくは裾に附着して家に歸りたる後振ひ落さるゝ黴菌は數限りも無きことなりと云ふ。

◎海外彙報

◉三人の小兒海を超て旅行す　去月英國のマンチエスターより英領コロムビアのトレイルに住するプレスコット夫人の許に到着したる三人の小兒は、小兒として自身に旅行したるものゝ中、恐らく最長距離を旅行したるものならんと云ふ。此三人の年齡は十一歲九歲及び四歲にして保姆なく監督者なく、自身に切符を求むることは勿論、總ての金錢の支拂を爲し、太西洋をレーキチャムピオン號にて渡り、加奈太は太平洋鐵道に依りて目的地に達したるが、乘合はせたる旅客等は三人の男氣を賞して止まず、種々の助力を與へ目的地には此事を傳聞して多くの男女盛んなる歡迎を爲したる由なり。

◉小兒の顏を現はせる橙　米國カリフォルニア州ロスアンゼルス市の商業會議所にアルコール漬となして保存しある橙は、其中心の所に穴あり、此穴より泣顏せる小兒の頭現はれ出て居りて、實に珍しき橙の由なるが、其小兒の顏は眞に迫りて實物と少しも變る所なしとのことなり。

◉佛國の自活婦人　佛國の一婦人が某雜誌に揭載したる「婦人の仕事」と題する一文に依れば、佛國婦人にして有形無形の勞働により其日々々の生活を送れる者總計六百三十万人あり。內三百万人は既婚者なるが、此等多數の勞働者中二百七十万人以上は農業上、二百万人は商工業上の勞働者にして、尙十二万人は僧尼、一万二千人は俳優、十三万八千五百六十人は醫師敎師の如き種類の職務に從事せる者なりと云ふ。

◉佛米婦人の相違　米國の婦人は性極めて冷靜なるを誇るに、佛國の婦人は之と全く反對に出て極めて感動し易し、故に後者にして結婚すれば、只管夫なる人を愉快ならしめ幸福ならしむることのみに心掛るも、米國の婦人は概して亭主はドウでも自分さへ幸福で愉快なれば構はないと云ふ風あり、根本的に此相違あり、米國婦人と佛國婦人は萬事に多くの相違を見るに至ると云ふ。

◉貴婦人の席儘に十九時　明廿六日擧行さるべき英國皇帝の戴冠式に參列する者非常に多數なるより、當局者は種々評議の上各參列者一人の充たすべき座席の尺度を極むるに決定し、先づ貴族夫人の座席を一人前方十六吋(方一尺四寸)と定めたるに夫人方の恐慌一方ならず、迚ても夫ればかりの席にては着席出來難しと當局者に向つて抗議を申込たるが、當局者も成程と再び評議の上尙三吋を增して十九吋(一尺七寸)となすことに改めたりと、當日の混雜想ふに堪へたり。

◉家族千餘人　モルモン寺院の長なりしブリグアムヤングの子孫は近々ソートレーキ市に會合する由なるが、世界の種々なる部分に散在せる其子孫の數は總て一千餘人にして、同市には斯かる多數の會合に充て得る家屋なきを以て野外に會合する筈なりと云ふ。

◉夫に緣薄き婦人　此頃巴里にて或日曜日の眞夜中に年頃二十二歲ばかりと思はるゝ一人の婦人、今は醜地となれる古き墓所の石碑に跪き何事かなさんとしつゝあるにぞ、偶々通り掛りし人之を見て不思議に思ひ近つき見れば全くの發狂なりしより、夫々介抱の上兩親を尋ね出し、篤と事情を尋ぬれば、此婦夫を持つこと既に三度に及びたるも、最初の夫は結婚の其晩に川に落ちて溺死し、二番目の夫は婦の實玉類を盜みて蹤跡を晦まし三番目の夫は恰度二三日前に自殺を遂げ、果ては婦自身の發狂せることと明かになりしと云、不幸な女と云ふべし。

よし、申出でられたりと云ふ。
自は、自己の意匠を凝し有名なる洋畫家○弁至一氏に囑して、皇室御繁榮の状を拜寫せる油畫を造り、其日之を宮內省に獻じたるが、其意匠は日に象れる緋色の地の中に　皇后陛下を、山に象れる靑綠色中に　皇太子殿下を、水に象れる滄碧色中に
美麗なるもの、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會會員の君達に告ぐ

愛國婦人會の機關として本誌を發行致候に付ては全國一般の會員方へ配布し購讀を願ひ試み候處幸に同情を表せられ御愛讀の旨陸續御申込み下され候段感謝の至りに候此上は會計を整理し長へに發刊を續くべき基礎を相立て申すべき必要に迫り候に付き本號限り御購讀御申込みありし方々へのみ差出し一般への配布は中止致し申すべく候間未だ何等の御通知これなき方々は此際購讀の有無御報知下されれ度懇請の至りに候尤も職員方は殘らず御愛讀の御事と見做し引續き差出し申すべく候自然御不用に候はゝ是亦御報知たまはりたく候

尚初號に廣告致候通り本誌定價は一部に付き金參錢五厘に候へども會員方に限り郵送料共金參錢にて差出し候に付相成るべく半ヶ年分(金三十六錢)又は一ヶ年分(七十二錢)取纏め御送金下されたく候

明治三十五年六月廿五日

愛國婦人發行所

女鶴子著

女性征伐

●新形美装全文色刷●
●定價金貳拾錢●郵税金四錢●

本書は某高等女學校の物せるもの其名は恐しけれども其實は面白く可笑しくして即ち

●歐化主義の妄想を破らんとするにあり
●守舊主義の迷夢を醒さんとするにあり
●貴族的贅澤主義の弊害を拂はんとするにあり
●花柳的婬猥なる女子の弊風を除かんとするにあり
●紛裝的諂媚なる女子の陋習を退けんとするにあり
●隷屬的倚賴主義なる女子の迷信を破らんとするにあり

本書を繙かば面白く可笑しき中に帝國女子の眞相を悟り母たる女子の心得を知り得べし

發行所 東京本郷森川町 電本局二四一四 育成會

賣捌所全國各地の書店雜誌店にあり

●兒童新聞は日本唯一の教育的兒童の讀物なり

子を持たる、御愛兒のために本紙を購ひたまへ讀ませて喜ばせる斗りでなく教育上の參考となります
父兄諸君は

特色 ◎言文がごく平易で、尋常科三年生以上のものであれば、よく讀み、よく解することができる◎野卑な記事は全くさけ、凡て教育的に出來てゐる◎あらゆる科學をごくわかり安く、ごくおもしろく、かき兒童の智識を啓發する◎多く四號活字をつかつて兒童の衛生に意を用ひてある◎挿畫はすべて記事と連絡あるものを用ひ、ことに意匠に意を用ひて、兒童の趣味を養ふ◎學校教育との連絡に意を用ひ學校で學びしことを自在に應用せしむる◎特に言葉づかひに意を用ひ國語統一の大機關を以て任じている。

毎月三回五ノ日發行
定價▲一部一錢五厘▲十部十五錢▲廿部三十錢▲三十部五十錢▲五十部七十五錢全國無遞送料(凡て前金)見本ハ往復端書ニテ照會アレ

發行所 東京本郷區本郷五丁目二十二番地 電話本局八百四番 兒童新聞社

近來の好著!!發賣册數拾萬を超ゆ!!

報知新聞曰く世間幾多の家庭に關する書ありと雖も此書の右に出づるものなし

言文一致普通文の著者 堺枯川君新著

家庭の新風味

第一册家庭の組織 結婚論夫婦論家族論附錄等
第二册家庭の事務 財政家族扱ひ方衣食住交際等
第三册家庭の文學 新聞雜誌書籍手紙日記和歌等
第四册家庭の親愛 夫婦親子兄弟姉妹祖父母孫等
第五册家庭の和樂 食卓來客宴會散歩旅行遊戯等
第六册家庭の教育 此一册七月發行(全部完結)

全六册金壹圓 郵税八錢 各册金貳拾錢郵税貳錢宛郵券代用は一割增

批評一斑

東京朝日新聞評して曰く最通俗最平易最多趣味に書かれたり男女共に一讀せば大に得る所あらん大阪朝日新聞曰く孰れも有益なる文字にあらざるなし妻たり娘たる者親たり夫たる者皆讀むべし中央新聞曰く文字平易文章簡潔思想健全紳士淑女必讀の良書なり時事新報曰く文章簡にて趣味饒し都新聞曰く此書に依りて和樂春の如き家庭を作り得ば常に幾萬金に價ひすべし云々

新刊圖書

伊藤銀月新著 冷火熱花第一編 東京之婦人 定價貳拾錢 郵税貳錢
海賀變哲新著 小說全集 初つとめ 定價參拾錢 郵税四錢
伊國カクリオストロ伯爵原著 西洋獨占ひ 定價廿五錢 郵税四錢
山縣五十雄譯註 英文學研究の三 英米詩歌集 定價廿五錢 郵税四錢
二六新報文學記者鍋田氷邨新著 消夏雜記 綠陰閑話 定價貳拾錢 郵税四錢

月刊文學雜誌 文庫 定價拾貳錢 六册前金六拾六錢 郵税壹錢宛見本郵券拾參錢

(本會發兌書目)御入用の方は往復端書にて御申込あれ

發兌 東京神田區南甲賀町八番地 內外出版協會

●誠實を旨とし愛國婦人新聞の特約販賣致候

業務擴張 書籍雜誌

●愛國婦人賣捌希望の向は申込有之度候

何れの出版を不問 敏活勉強取次販賣

東京神田表神保町 ◉東京堂◉ 電話本局二四八番

總裁小松大宮妃殿下 副總裁鍋島侯爵夫人

推戴賛成員有栖川大妃殿下小松若宮妃殿下華頂宮妃殿下梨本宮妃殿下其他賛成貴婦人百餘名

大日本女學會

新學年を開き會員を募集す

●本會は明治二十八年の創立にて既に學年を改むること三回講習終了者一萬六千餘人を出せり●講義を囑托せる講師は華族女學校女子高等師範學校日本女子大學校等の諸教授及び其他博士學士等著名の專門家なり

本會は國家開明の本源たる女子教育の普及發達を圖らんが爲に女子必須の諸學科を掲げたる講義錄を發行し家庭を離れ難き女子をして居ながら通信教授を受けしめ且つ家庭を整ふる人の參考に資す仍て一般女子素養の程度に應じ高等簡易兩科を設くると左の如し

高等科(毎月一回廿五日女學講義發行二個年終了東脩四拾錢月謝四拾錢紙數菊判參百頁)

○倫理坪內雄藏○禮法佐方鎭子○教育學安井哲子○兒童學高島平三郎○國文阪 正臣○文法今泉定介○作文同 ○作歌大口鯛二○美辭學島村瀧太郎○漢文土屋 弘○日本歷史大森金五郎○日本婦人列傳下田歌子 ○萬國歷史喜田貞吉○日本地理同○萬國地理同○地文脇水鐵五郎○理化同○算術上野 清○博物津田梅子○生理衛生三宅 秀○家事衛生同○小兒衛生三島通良○家事經濟後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎 ○習字阪 正臣○繪畫武村千佐子○圖案同○美學島村瀧太郎○音樂東儀季治○挿花秀島成蔭 ○點茶松浦伯爵 ○園藝池田伴親○法制經濟岡月瞭介○民法鳩山和夫○社會學岸本能武太○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

簡易科(毎月一回五日女學講義發行二個年終了東脩貳拾錢月謝貳拾錢紙數同百五十頁)

○修身談本會編纂○禮法佐方鎭子○國文同○作文今泉定介○漢文土屋 弘○日本歷史大森金五郎 ○日本地理喜田貞吉○算術上野伊志子○博物小此木忠七郎○理化脇水鐵五郎○生理衛生三宅 秀○家事綱要後閑菊野○家庭教育三輪田眞佐子○割烹石井泰次郎○裁縫渡邊辰五郎○習字阪 正臣 ○圖畫武村千佐子○史傳下田歌子 ○御伽譚○詞藻○質問應答○雜錄○雜報

●會則は端書にて請求あり次第送呈す●束脩月謝を添へ申込あれば假入會を許し直に送本すべし

昨年十一月新學年開始 七卷迄發行 初卷より缺本なし

東京麴町下二番町三七(電話番町壹參參〇) 大日本女學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十五年六月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

◎特約販賣店
◎東京堂　神田區表神保町三番地
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

美術金製指環

定價　金五圓以上餘は御好に應じ調製可申候

東京下谷池之端仲町
玉寶堂　飯塚伊兵衛
電話本局特九百六拾五番　一千二百四拾四番

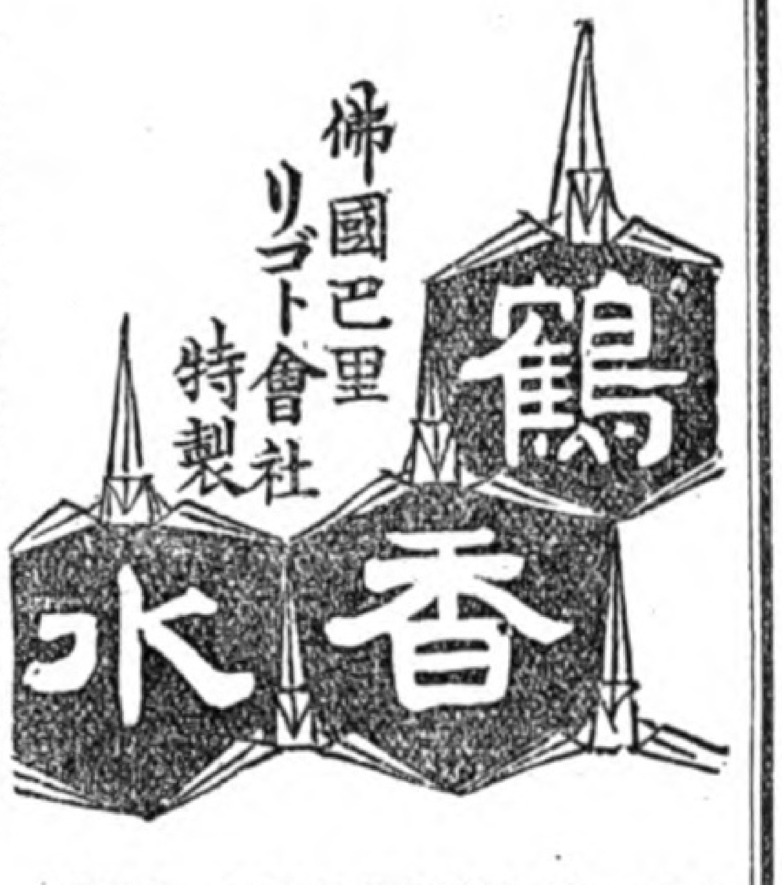
正四位勳三等醫學博士　三宅秀先生著
大日本女學會發行　日本女子大學校教科書
家事衛生
總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵税金六錢

此書は文部省學校衛生顧問內務省中央衛生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき懇切に說示されたり世に類なき家庭主宰者の寶典なり

田邊和氣子刀自遺稿

此書は故田邊女史の令名を不朽に傳へんとて大日本女學會より紀念の爲に發行せられたるなり書中に割烹點茶活花の三篇あり是等の科目を說きたる書世に多けれども之を讀みて實際に講習し得らるるものは此書のみなりとの世評あり是れ畢竟女史が京都高等女學校華族女學校東京女學館大日本女學會等に於て多年授業法に熟練せられたりし結果なりといふ
●總クロース綴ぢ金文字入り菊判五百四十頁定價金壹圓郵税金拾貳錢
大賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

ヴワイヲレット製　壽美花おしろい　伊葉壺堂吉製
正價　大瓶二十錢　小瓶十二錢
定價　大瓶廿五錢　中瓶十五錢　小瓶十錢



佛國巴里リゴト會社特製
全國西洋小間物化粧品店ニ販賣ス

歐米雜貨輸入卸商
輸入元　東京日本橋具足町　大阪東區安土町
大崎組商會

目　夏半ゑり帶揚類　新柄友僊絞り形縫
絽○絹縮○紋鹽瀨○染形○帶片側○組絞り兵兒帶
○蹈模樣け出し○別織染下〆○絽手網○絞り美人
紐崁木綿縮眞岡小紋中形染意氣高尙
新染浴衣地　向○雀形ゑり治形まげ入
電話新橋二千二十七番
ゑり治　園田商店
新橋竹川町十二番地本店、詰帝國博品館內支店

●特許梅田竈は石炭●コークス●木炭雜木焚得る舊式の竈に比れば五割餘の益●鍋鐵瓶等掛得る●煙器具等燻らず家屋御試用三十日間は元價で買戻す
石炭を焚用ふれば八割餘の日益がある

●定價は鑄鐵製で
二升器　三圓五十錢
三升器　四圓六十錢
四升器　五圓三十錢
五升器　六圓五十錢
六升器　七圓八十錢
八升器　九圓也
一斗器　十二圓也
●說明書及び總銅製の價は無代で送る
發賣元　東京日本橋區通油町　梅田　名古屋市鐵砲町　岡谷　商店

（登錄商標）
佛國大博覽會賞牌受領
博覽會賜賞牌　東京　東両國横網町
今古改正　寶香　齒磨
伊勢屋吉次郎謹製

西洋色白くなる洗劑　壽美花あらひ粉
東両國　伊勢吉　壽美花堂
定價綠藍紅彩蝶番ひ鑵詰六錢五厘ボックス入三錢袋入壹錢

東京女學館講師　國分操子著
日用寶鑑　貴女之栞
和裝全二冊　金一圓六十五錢　郵税金十八錢

三輪田女學校長　日本女子大學校教授　三輪眞佐子著
女訓之栞
和裝美製全一冊　正價金四十五錢　郵税六錢

近時女子教育の事を論ずる書少からずと雖も其當を得たるもの少し本書は一身を女子教育に傾倒せらるゝ三輪田女史が卓拔なる見識と多年の經驗とによりて新に走らず舊に失せず溫健着實なる筆を以て賢母良妻のとるべき道を述べられたる者なりその條目數十讓論に交ふるに偶感あり經歷談あり然も皆女子一生の訓戒ならざるはなし世の女子たる者又其父兄並に教育に志ある諸士は必ず一本を備ふべき良書也

小野鵞堂書
增訂　女子手紙之文
和裝全一冊　金四十錢　郵税四錢

女子成立學校講師齋藤園子編纂
女子教科　包結之栞
和裝美製全二冊　正價金九十五錢　郵税金八錢
套入美製金壹圓拾錢　郵税金拾錢

增補日用　西洋料理法
附支那料理及玉突指南
洋裝金四十錢　郵税六錢

華族女學校教授　坂正臣作並書
女子習字　文のやまくち
和裝全二冊各正價金三十五錢郵税各四錢

發行所　日本橋區通一　電話本局四一四
大倉書店

專賣特許
佐竹組本店
電話浪花一五六

本舗　東京日本橋區横山町十三番
佐野大和堂

總裁小松大宮妃殿下　副總裁鍋島侯爵令夫人
大日本女學會發行　東京麴町區下二番町三七

第二卷第六號發兌

毎月一回十五日發行定價金拾五錢全國無遞送料

【卷首】本會賛成員侯爵世嗣夫人德川久子筆歌かるた【論說】英國の家庭教育（其二）下田歌子●妻としての務、嘉悅政子●婚姻と經濟、愛南學人【學藝】和書解題、喜田文學士●日本名媛批評（神功皇后）下田歌子●明治維新の原動力（四）津田黃昏●兒童の言語梅澤和軒●作文批評、今泉定介●作歌批評、大口鯛二【修身】交際の必要、鳩山春子【齊家】點茶、松浦伯爵●割烹、石井泰次郎●家庭の音樂遊戲（三）露草學人【世務】法制談（地方自治體）岡戶法學士●經濟談（外國貿易）伊藤秋南●各地產業の實況（伏見人形）【史傳】ヴヰクトリア朝の二大女作家、中島孤島【譚艸】鵜のまねする鳥、月迺舍かつら●三人小供、稚松園●新家庭の一日（其二）稚松園【詞藻】與風會應制詠進の歌●みやび會員詞藻【雜錄】キューバ島に就て、ミッセスウッド●妙海尼の書面●圖案、武村千佐子●婦人論梗概【彙報】內外要報十數件

大賣捌　東京神田區表神保町三　東京堂

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會內

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN